

ジャムズネット東京メンバーインタビュー 第8回

聞き手：池田みどり

ニューヨークでレクリエーション療法士・理学療法士としてお仕事をしながら、福祉のボランティアとしても活躍されてきた長谷川真人さんが、第8回のゲストです。まだまだ日本の理学療法士の認識度は、米国に比べて低いようです。高齢問題を抱えた日本社会で、ますます需要が増えていくだろうリハビリテーション。米国との違いを探ります。

■長谷川真人さん



理学療法士。日本理学療法士協会国際部部員。ニューヨーク大学でセラピューティックレクリエーション修士号取得。その後 Jewish Home & Hospital(高齢者介護施設)およびNYU病院勤務を経て、帰国後、東京大学医学部附属病院リハビリセンターに勤務。

・福祉に関わろうとしたきっかけは何ですか？

小さい頃から人生の色々な教訓を伝えてきてくれた母が養護学校教諭ということと自身自身が運動を通じた職業に関わりたいと思い、栃木県の大自然の中にある国際医療福祉大学理学療法学科に入学し、理学療法士の免許を取得しました。

・その後、ニューヨーク大学に留学されましたね

大学3年生の時に横浜で開催された世界理学療法学会にボランティアとして参加し、その経験より世界のリハビリテーション事情をより深く学んでみたいと思い、大学卒業直後の2001年にニューヨーク大学院教育学部保健学科セラピューティックレクリエーション専攻課程に入学しました。2年間の課程でしたが、入学直後に起きた米国同時多発テロ事件の影響もあり、メンタルヘルスと身体面両方に関わる様々なリハビリテーションアプローチの理論、2施設での実習を通じた実践を学んでいきました。セラピューティックレクリエ

ーション学自体日本であまり勉強できない特別な内容でしたが、加えて性と健康問題、ダンスセラピー等、ニューヨークならではの授業も選択しました

・ボランティア活動もされていたようですが、どのような活動をされたのか教えてください

地域に根ざした健康支援活動ということで、在米中のほぼ毎週土曜日又は日曜日はスペシャルオリンピックスという知的障害者のスポーツコーチ、プログラム運営ボランティアを行っていました。ニューヨークの様々なバックグラウンドを持った方々と共にボランティア活動が出来、とても貴重な経験となりました。また、徐々にNYの日系コミュニティ、特に高齢者に対して、体操教室を行ったりして、活動が拡がり、現地の日本人高齢者クラブHEIANを杉村真美さん達と立ち上げ、ジャムズネットに初めて関わるようになりました。進藤さんともNY日系人会での高齢者問題協議会を通して、一緒に活動する機会もあり、ボランティアを通して非常に多くの素敵な方々と出会うことも出来ました。

・ニューヨークの介護施設に就職されましたが、施設の概要と、お仕事の内容など、教えてください

Jewish Home & Hospital はマンハッタン内に有る一番歴史の古い施設で、高齢者のリハビリ施設、長期療養施設(緩和ケアも含む)、ディケアセンター、在宅ケア、シニアアパート等非常に様々なサービスを行っている団体でした。基本的な業務は、長期療養している様々な障害を持った高齢者の方々の心身の健康を維持、向上するために、色々な楽しい活動をもちいて、生活の潤いを引き出していくような仕事でした。具体的には、筋力トレーニング、ジャズを聴きながらダンス、芸術活動、映画鑑賞、ブロードウェイにミュージカル見学、ドックセラピー、世代間交流活動など多彩な活動を計画、実践、評価という流れで、治療的意味合いを用いて行っていました。毎日、高齢者の方々と楽しく仕事をしていました。

・その後、ニューヨーク大学病院で、しばらく働いていらっしゃいますが、ここでは、どのようなお仕事でしたか？

Jewish Home & Hospital に勤務している間、NY州理学療法士免許を取得し、より最先端の医療現場で勤務したいと思い、急性期病院である、ニューヨーク大学病院に勤務する機会がありました。様々な手術をした患者さんに手術直後(場合によっては当日)から、運動や立ったり歩いたりする急性期リハビリテーションを行っていました。事情があり、2ヶ月程度の勤務で帰国となりましたが、非常に良い経験を積むことが出来ました。

・帰国されて、現在は東京大学病院で勤務されていますが、米国との違いはどのようなところにあると思いますか？

日本のリハビリはここ最近急発展を遂げ、理学療法士は米国と日本とで、行なう業務内容が大きくは変わらないと思います。しかし、日本の現場ではまだまだ人材不足で、本当に十分なリハビリを提供出来ないことがあります。日本では、リハビリを通して心理職やソーシャルワーカー的な役割を求められることも多く、相手の患者さんと総合的に関わっていきけるという利点もありますが、一方で専門性を持ち難い面もあります。米国では理学療法士(Physical Therapist)という分からない人はいない位ですが、今後、高齢者リハビリを中心として理学療法士の需要は増していくと思われますので、もう少し、日本でも社会的な地位が上がっていくといいなと感じています。

・今後の活動について教えてください

過去を振り返ると色々な方々の支援を受けて、非常に恵まれた環境で留学、現地生活を送ることが出来たと思っています。これらの経験を生かし、日本から世界へ有意義な情報、活動を発信していくお手伝いが出来ればと考えております。特に今後迎える世界的な高齢社会に対応出来る、医療・健康サービスに注目しています。具体例として、ロボット機器を用いたリハビリや介護支援等は、日本が世界をリードしていく分野かと思いますが、これらの分野にも積極的に関わっていく予定です。また、日本理学療法士協会国際部部長として、今後世界を目指す日本の理学療法士の方々のサポートも行ない始めました。

・ジャムズネット東京に期待すること

もうお亡くなりになった私の恩師が、留学する前に、「留学して一生の仲間を見つけてきて下さい。」と言葉を残してくれました。ニューヨーク留学、生活を通してジャムズネットの皆様とお会い出来たのは、私の一生の宝だと信じています。本当に素晴らしい人たちがとても有意義な活動を行なっているので、これらのネットワークをジャムズネット東京を通してより深め、グローバル社会の中で、世界的に日本人が直面する様々な問題点の解決のお手伝いを他のメンバーの皆様と一緒に進んでいければと思っています。どうぞ、今後も宜しくお願いします。